

電磁振動式 安息角測定器

AOR-57形



特 長

1. 注入法、排出法、残留円錐法、クレーター法、傾斜法を加味した測定法。
2. 付着、凝集性の試料から流動性のよい試料まで広範囲に測定できます。
3. 試料の排出口が交換（3種、4、6、8mmφ）ができます。排出口と山の頂点を一定に保つ操作ができますから正確に測定できます。
4. 試料の特性により電磁振動部本体①の振動調節②で試料槽⑤、⑥の振動を調整ができ、流出量の加減ができます。
5. 試料積載ベースの直径が変ると安息角が違ってくるのが普通です。ベース（3種、60、80、100mmφと交換して測定する）が付属しています。
6. 試料槽⑤は約150mLで500μmが張ってありますが試料の流動性により細目または粗目の網をご指示により張ります。試料槽⑥は通常は試料槽⑤と同じメッシュを張ります。

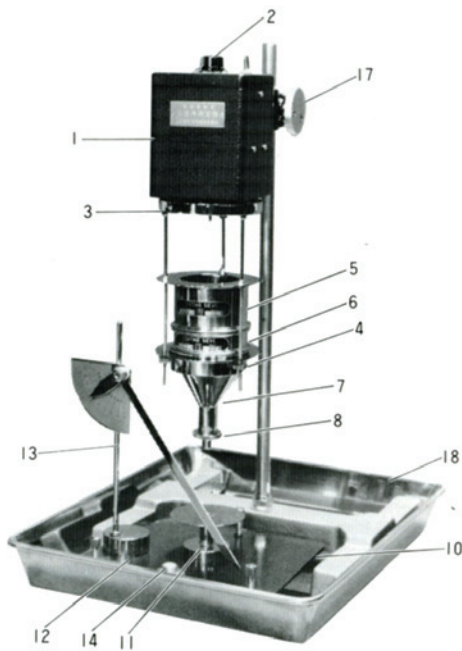
安息角の測定には各種の方法があります。列記しますと、注入法、排出法、残留円錐法、クレーター法、容器傾斜法、*ターンテーブル法、**円筒回転法(*、**は弊社にて発売)などがあります。

サイロ、ビン、ホッパー、ベルトコンベアーなどの設計、製作には重要な特性値です。測定試料には一般に水分（湿度）粒度（混合）付着凝集性、流動性、分散性などは安息角の測定に影響が大きく測定法によっては著しく違った値になりますから特に測定器の選定が重要となります。

本器は各種の測定法の特長を備えた精密に測定できる安息角測定器です。自社製造の粉体製品の品質管理、同一製品の比較検査、原材料の受入検査などに使用できます。

Angle of Repose Tester

各部の名称と仕様



1. 本体電磁振動部	1台
AC 100V 35W	
2. 同上振動調節ダイヤル	1個
3. 吊下用架台 (三本足)	1個
4. 同上用固定ナット	3個
5. 試料槽 (上部) 500 μ m	1個
ステンレス製 約 150mL	
6. 試料槽 (下部) 500 μ m	1個
ステンレス製 約 50mL	
7. 漏斗部 (60°)	1個
8. ノズル (排出孔径)	3個
4、6、8mm ϕ	
10. 安息角測定用水平台 (水平器、水平調節ねじ付)	1台
11. 安息角測定用試料台	1個
12. 安息角測定用円板	3枚
60、80、100mm ϕ	
13. 安息角測定用分度器	1個
14. 水平器	1個
15. 試料投入用匙 300mm	1本
ステンレス製	
16. スタンド (ラック・ピニオン式)	1台
H560×W300×D300mm	
17. 上下調節ハンドル (円形)	1個
18. 角バット 300×350mm ステンレス製	1個
刷毛	1本

取扱説明

1. 付属の角バット⑱にスタンド⑰を入れ、本体①を支柱のクランプに挿入して固定します。
2. 試料の粒度に合わせて試料槽⑤のメッシュを選定します。(此の場合500 μ m) 吊下架台③の固定ナット④をはづして試料槽⑤をセットします。試料の流動性によりノズル⑧の孔径を選択し漏斗⑦の先端にねじ込みます。
3. 水平台⑩をスタンドの中心に置き、3本のねじにより水平を出します。安息角試料台⑪を中心円台の中に(中心に)置き円板⑫ 100mm ϕ を載せます。
4. 本体①を上下調節円ハンドル⑰を右に廻して下げ排出ノズル⑧が安息角測定台⑪の中心と合せます。付属の匙で試料槽⑤に試料を約50mL投入します。
5. コードを電源に差込み、中間スイッチのスイッチを入れますと吊下架台③が振動します。円ハンドル⑰を左に除々に廻して本体を上昇しノズル⑧の先端が山の頂点と5mmに保ちながらハンドルを廻します。(試料が少なくなったら追加します)
排出量は最初は多くても次第に少なくして下さい。流量の調節は本体の調節ねじ②を左に廻すと流量が多くなり、右に廻すと少なくなります。適当な位置で固定します。
6. 測定台⑪に載せた円板⑫の周囲から試料がこぼれ落ちるようになったらスイッチを切り静かに本体①を上昇して分度器⑬で測定し易い位置で止めます。
7. 安息角測定用分度器⑬は安息角測定用水平台⑩左後部の位置に置き試料の山に合わせて角度を読み取ります。順次80、60mm ϕ と測定して平均値を求めます。

備考 流動性の良くない試料には粗目の試料槽を用い振動を強くする必要があります。

特
約
店

筒井理化学器械株式会社

〒110-0003 東京都台東区根岸1-1-31
☎ 03(3845)2011(代) FAX 03(3842)5852